

基礎研修会 グループワーク 【まとめ】

開催日	会 場	参加人数
8月23日（木）	秋田市 ゆとり生活創造センター遊学舎「研修室1・2」	21名
8月24日（金）	大館市 大館市エコプラザ「もったいない工房」	14名
8月28日（火）	横手市 横手かまくら館「研修室2」	22名

「身近に感じる地球温暖化の現状と私たちが今できることを考えよう！」

今回のグループワークは、地球温暖化による影響と原因について意見交換をしながら、私たち個人ができることについて話し合い、地域の方々にどのように伝え、実行してもらうか考えてもらうことを目的に開催しました。

また、グループワークを通して、秋田県地球温暖化防止活動推進員（以下「推進員」）やあきたエコマイスター（以下「エコマイスター」）の方々の交流を深め、今後の活動のきっかけになるよう、次の3点について話し合いました。

- ①地球温暖化の影響・原因
 - ②私たち個人ができること
 - ③推進員・エコマイスターとして地域の皆さんにどのように普及啓発していくか。
- また、普及啓発するうえでこんなのがあったら伝えやすいと思うものはないか。

皆さんの話し合いの結果、様々な意見がでましたのでご紹介します。

★温暖化の影響・原因★

- ・温暖化について無関心な人の存在
- ・快適な環境を求める生活に慣れてしまった
- ・自家用車の使用によるCO₂の排出（一家に一台から家族の人数分増えた）
- ・生活の便利さを求めて家電等の器具の使い過ぎ（無駄な電気の使用など）
- ・火力発電所
- ・世の中があまりにも便利になりすぎた
 - ※自動車、冷蔵庫、ストーブ等の電化製品（工業製品）
→CO₂フロン etc の大量な温室効果ガスの発生排出！
- ・気温の上昇
- ・海面と海水温度の上昇
- ・集中的な雨が降る
- ・穀物の品質の低下
- ・ゴミ、ガス、灯油によるCO₂の増加（化石燃料の家庭消費、生ゴミが多い）
- ・野生動物が多くなった？
- ・除草剤の使い過ぎ（除草剤の使用による地熱の上昇）

- ・森林の伐採や化石燃料の使い過ぎ→二酸化炭素の増加→温度の上昇
- ・オゾン層の破壊
- ・化石燃料を使わない事は現時点ではできない
- ・中国は今、「ゼロ」に近づけようとしているが確約されたものではない
※北京のスモックがなくなってきた。(電気自動車への転換か?)
※日本の取り組みは?風力はまだ成果が現われるまで時間がかかる
- ・山、森林の荒廃の問題
※輸入外材が入ってきた。国の木の伐採に補助が出されている

★私たち個人ができること★

- ・環境問題の意識を共有する(数字を出すと伝わりやすい)
- ・県や市の取り組んでいる事業を紹介する
- ・効果が限定的でも出来ることからやっていく
- ・エコドライブ(講習を受け実践する、アイドリングはやめる)
- ・家庭で出来る取組み(電気をこまめに消す、ゴミの減量)
- ・ダンボールコンポストの活用
- ・森林の保全
- ・エコカーを使用する
- ・温水便座の使用について考える(夏の期間や夜の使用時の使用を止めた)
- ・便利な生活を見直し少し不便な生活でも我慢する
- ・公共交通機関の利用(秋田市は65歳以上の方が100円でバスに乗ることができる)
 - ・車やタクシーは乗合を利用
- ・薪ストーブの使用
- ・防災マップを活用する
- ・食生活の見直し(捨てるような食品は買わないなど)
- ・植樹活動(杉より広葉樹)
- ・植樹の重要性(光合成の作用があるので)…保水力の違いで植える場所を決める
 - ・保水力のない 杉(ねばりのない)→田んぼに植えよう
 - ・保水力のある ブナ・ナラ→落葉樹は山の動物にも良い
- ・その土地に合った環境づくり
- ・再生可能に地道に取り組んでいくことによってできる(本物を植える)
例:ニセアカシアの拡散による被害
- ・なるべく地元のものを食べる(地産地消)
- ・脱炭素社会
- ・環境家計簿をつける
- ・食品ロスを減らす(料理は作りすぎないで食べきれくらいにする)
- ・家庭菜園の取組み(地産地消)
- ・環境保全活動に参加や協力する

- ・マイバッグ持参
- ・IH やエコキュートの使用
- ・自然エネルギーを使用する
- ・便利な生活を見直す
- ・不要不急な物は買わない

★普及啓発について★

- ・子供たちに環境保全を引き継ぐ（小学生からの意識づけ、学童保育で学習会の実施）
- ・町内会や老人会、婦人会などの集まりを活用し伝える
- ・やる気のない人達が動き出すようなシステムづくり（メリットがなければ動かない）
- ・高齢者にもわかるように、分別をわかりやすくする
- ・パンフレットの活用（工夫の部分）
- ・環境活動の取組みには損はないことを伝える
- ・野菜の自給自足（地産地消）
- ・公共交通機関（バスや電車等）の利用
- ・車やタクシーは乗合を利用
- ・災害対策について訓練する（身近で起きていることから伝える）
- ・フードマイレージ等の啓発
- ・児童館に出向いてエコ学習の開催
- ・山の再生
- ・休耕田の利用
- ・草刈りや整理
- ・地産地消や脱炭素社会を目指す私たちの考えを県にも訴えていくことが大事
- ・関係機関への呼びかけ
- ・地球の温度を人間の体温に置き換えて地球温暖化を訴える
（地球の温度が1～2℃上昇→人間の体温が1～2℃上昇…これは大変ですよ！）
- ・プラスチックやペットボトル、缶、瓶などのリサイクルの普及に力を入れる

★普及啓発するうえでこんなものあったらいいな★

- ・地球温暖化かるた
- ・環境紙芝居
- ・環境について楽しみながら学べるものをみんなで一緒につくる！
- ・普及啓発の手段として、推進員やエコマイスターのみんなで制作したものを共有することで、伝える意欲を高める
- ・商品化できるくらいのものを制作する！
- ・「これ欲しい！」と興味を持ってもらえるようなものを考える

基礎研修 グループワークを終えて

今回の基礎研修では、推進員やエコマイスター同士の交流を図るとともに、地球温暖化の影響で様々なことが起こっている中で、自分たちが個人で今できることを考え、地域の方々にどのように伝えていくかを話し合い、有意義な意見交換をすることができました。

地球温暖化について、「地域の方々に伝えるのは難しい」との意見もたくさん出ていましたが、「地球の温度が2℃上がったらどうなるか？」を「自分の体温が2℃上がったらどうなるか？」と置き換えて話すことで「人間も地球も2℃温度が上昇したら大変。人間が風邪をひかないように予防を心がけると同じく、地球も温暖化防止を心がけることが重要。例えば、使っていない部屋の電気を消す、エコバック持参、公共施設や公共交通機関を利用するなど、できることをひとつでも実行することにより、地球温暖化防止に貢献できる」と説明することで、少しは思いを伝えることができた、といったお話を聞くことができました。

また、地域の方々に伝えるためには、「環境かるた」や「環境紙芝居」を制作したらいいのではないか、といった意見もありました。推進員やエコマイスターが自ら制作することにより、自身の勉強にもなり、もっとたくさんの方々に地球温暖化について考えてもらうきっかけをつくることができるのではないか、といった意見もありました。

推進員、エコマイスターの皆さんと普及啓発グッズの開発・制作することにより、わかりやすく、楽しみながら地球温暖化防止の取組みを伝えていきたいと思います。

そして、県民ひとりひとりが「できることからはじめよう！」を合言葉に、家庭から取組むエコ活動を一步一步進め、地球温暖化防止につなげていってもらえればと思います。

環境あきた県民フォーラム 事務局

